保育内容演習ⅠⅡを通した学生の主体的な学びの形成に資する保育者養成プログラムの構築（1）
−キッズシアターの企画・運営を通した学生の育ち−

Construction of nursery teacher training program for developing students' active learning through the childcare contents seminar Ⅰ Ⅱ (1)：Students' improvements through planning and conducting "KIDS THEATER"

小山優子　渡邉寛智　梶谷朱美　中井悠加
（保育教育学科）（保育学科）（保育学科）（保育学科）

キーワード：保育者養成、アクティブ・ラーニング、思考力、協働、表現力

1. はじめに

本学短期大学部保育学科は、昭和 47 年から地域の子どもたちに公演してきた「児童文化（ほいくまつり）」の授業を平成 30 年度に新設した四年制大学のカリキュラムに移行した。それにより、平成 30 年度以降の短大において、保育士・幼稚園教諭養成カリキュラムに位置づく新たなアクティブ・ラーニング型の授業科目を新設する必要が生じた。保育者は保育現場の中で自主的・主体的に行動する力や子どもの行動や反応を予想して保育を展開する思考力、保育者間で物事を進める際に連携・協働する力などを身につけることが求められるが、これらの力は講義による受け身の学習だけでは育成は困難である。つまり学生が自分たちで保育に関する活動案を考え準備し、実際に実践を行う中で反省点などに気づきながら自己の成長を実感できる PDCA サイクルを経験する授業科目が必要であり、学生の主体的な学びをより実質化し、実践力を確実に身につけるための効果的なカリキュラムを再構築することが求められる。そこで今年度より「保育内容演習Ⅰ・Ⅱ」の授業を新設し、この授業を通して学生に主体的に考え実践する力を養い、保育者としての力量を高めるカリキュラムの開発を行うことを研究の目的とする。

2. 方法と経緯

1) 方法

「保育内容演習Ⅰ・Ⅱ」の授業は、保育士養成・幼稚園教諭養成の必修科目である「保育内容の指導法」に位置づく科目であり、短大保育学科の 1 年生が年間を通じて学修する必修科目として設置した。この授業は、保育内容の 5 領域の内容を総合的に取り入れた幼児向けの表現活動を計画・実践する

とともに、幼児への適切な指導法の理解を目的とする。保育内容の 5 領域を統合した活動、すなわち子どもたちが遊んだり製作活動ができる遊び場コーナーを計画・準備し、大学祭で遊び場ブースを学生自らが運営したり、歌や手遊び、クイズ、ペープサートやパネルシアター、人形劇や劇（人間劇）などの表現活動を創作し、授業の最終回に地域の子どもや保護者を学内に招いて発表会を行う授業を構想した。そうした学生主体の活動を学生に経験させる過程で、保育者としての意識の育成と実践力の向上を目指すと同時に、より効果的で魅力あるカリキュラムを実現するためのインストラクショナル・デザインに基づき、計画した内容を実践・発表し、実際の子どもたちの反応から計画案を省察・評価することを通して、子どもへの望ましい表現指導の方法を習得できる学びのサイクルを形成するプログラムを目指す。

これらの活動を含んだ保育者養成プログラムを考案した理由は、保育所や幼稚園では普段、保育者が子どもを集めて絵本の読み聞かせをしたり、季節の歌を歌ったり、活動の合間に手遊びやクイズをしたり、誕生日会や行事の際には保育者が主体となって劇や出し物をすることが保育者の職務となるからである。日々保育者は、遊びや設定活動の時間の中で子どもたちが主体となって遊んだり製作活動をするなどの活動を考案し、その活動を計画・準備する力が求められる。また行事のうち「〇月の誕生日会の責任者」と決まれば、その月の誕生日会の出し物を自分で責任を持って企画・運営し、他の保育者に協力を求めながら協働して楽しい会になるように準備・実施する力が求められる。保育者には日常の保育の中で子どもとの楽しいひとときを作り出す実践力が必要となるため、保育内容演習Ⅰ・Ⅱの授業では「子どもたちが主となって作ったり遊んだりする活動」として大学祭での子どもの遊び場コーナーを、「保育者が主となり子どもたちが見て参加して楽しむ活動」として 1 月の発表会を実施することにした。なお、授業での学生・教員間の話し合いの過程で、大学祭の子どもの遊び場コーナーを「キッズランド」、1 月の発表会を「キッズシアター」と命名したため、以下その名称を使用する。

2)「保育内容演習Ⅰ・Ⅱ」の目的と目標

(1)授業の目的

保育内容「表現」「言葉」「健康」「人間関係」「環境」の 5 領域の内容を総合的に取り入れた幼児向けの表現活動を計画・実践するとともに、幼児への適切な指導方法の理解を目的とする。5 領域の保育内容を統合した歌や手遊び、クイズ、パネルシアター、人形劇や人間劇などの子どものための表現活動について具体的な創造活動を通して学ぶ。「保育内容演習Ⅰ」では、幼児の表現活動につながる様々な教材を調べる中で、幼児にとってのよりよい活動

表1. 保育内容演習Ⅰ・Ⅱ授業計画

【春学期】「保育内容演習Ⅰ」(4～9月)

講義日		回数	授業内容
4月10日	火	1	授業の趣旨と授業内容の説明、1月発表会(キッズシアター)参考ビデオ視聴①
4月17日	火	2	キッズシアター参考ビデオ視聴②、図書館で教材調査 【宿題】「キッズシアターの活動案を考える」
4月24日	火	3	おはなしレストラン(大学内絵本の図書館)でキッズシアター活動案の教材調査
5月1日	火	4	学生全体の前でキッズシアター活動案の個人発表、活動案の決定とパート決め
5月8日	火	5	キッズシアターパート別題材決め①、全員に向けて活動案報告(以後、授業終了時に毎回)
5月22日	火	6	「昔話の意義と再話・台本の作り方」講義、パート別題材決め②、活動案報告【宿題】「学びの記録」
※5/22以降、空きコマに各パート別で自主活動を行う！			
5月29日	火	7	パート別題材決め③(活動内容の計画)、活動案報告 【宿題】「大学祭(キッズランド)活動案を考える」
6月5日	火	8	パート別題材決め④(活動内容の計画)、活動案報告、パートリーダーの決定
6月12日	火	9	保育2年による発声練習講習と各パート指導、パート別台本作り⑤(活動内容の計画)、活動案報告
6月14日	木		保育2年による「ほいくまつり」パートリハーサル見学、コメント用紙の記入
6月19日	火	10	保育2年による発声練習講習と各パート指導、パート別台本作り・製作・準備・練習⑥、活動案報告
6月26日	火	11	発声練習、パート別台本作り・製作・準備・練習⑦、活動案報告
7月3日	火	12	発声練習、パート別台本作り・製作・準備・練習⑧、活動案報告
7月10日	火	13	発声練習、パート別台本作り・製作・準備・練習⑨、活動案報告
7月17日	火	14	学生全体の前でキッズランド(大学祭)活動案の個人発表、グループの決定
7月24日	火	15	キッズランド(大学祭)の遊び場ブースの計画・準備①、活動案報告
7月31日	火	16	発声練習、キッズシアターの全体リハーサル①(各パート発表) 【宿題】半期授業のふり返りレポート
8月2日	木		3役選挙・3役の決定
夏休み中			自主活動として各パート別にキッズシアターの題材選び・台本作り
9月末			大学祭の遊び場ブースを「キッズランド」と決定、大学祭チラシ案完成

【秋学期】「保育内容演習Ⅱ」(10～3月)

講義日		回数	授業内容
【広報】保育所・幼稚園などにチラシを印刷・配布 (10/5(金)に投函終了)			
10月2日	火	1	キッズランド(大学祭)の遊び場ブースの計画・準備②
※10/2以降、空きコマ・放課後にパート別で自主活動を行う！			
10月9日	火	2	キッズランド(大学祭)の遊び場ブースの計画・準備③、当日の会場準備
10月12日	金		キッズランド(大学祭)準備
10月13日	土		キッズランド(大学祭)1日目(10時～12時、13時～15時)
10月14日	日		キッズランド(大学祭)2日目(10時～12時)
10月23日	火	3	発声練習、キッズシアターのパート別練習①
10月30日	火	4	発声練習、キッズシアターのパート別練習②
11月6日	火	5	発声練習、キッズシアターのパート別練習③、「台本作りの様式と運用」講義
11月13日	火	6	発声練習、キッズシアターのパート別練習④
11月20日	火	7	発声練習、キッズシアターのパート別練習⑤
11月27日	火	8	発声練習、キッズシアターのパート別練習⑥
12月4日	火	9	発声練習、キッズシアターのパート別練習⑦、チラシ作り(案)の作成
12月11日	火	10	発声練習、パートリハーサル①(ミュージカル、パネルシアター、クイズ、劇)
12月18日	火	11	発声練習、パートリハーサル②(歌唱、人形劇、劇)、1月発表会を「キッズシアター」と決定
【広報】保育所・幼稚園などにチラシを印刷・配布 (1/10(木)に投函終了)			
1月8日	火	12	発声練習、キッズシアターのパート別練習⑧
1月15日	火	13	発声練習、パートリハーサル③(オペレッタ、パネルシアター、クイズ、劇)
1月17日	木		発声練習、パートリハーサル④(歌唱、人形劇、劇、オープニング・エンディング)
1月22日	火	14	発声練習、全体リハーサル②
1月24日	木		発声練習、全体リハーサル③
1月25日	金		発声練習、全体リハーサル(最終)
1月26日	土		キッズシアター発表会(午前・午後(10時～12時・14時～16時)2回公演)
1月29日	火	15	学生全体の前でキッズシアター感想の個人発表、【宿題】1年間の授業のふり返りレポート

や教材を理解する視点を身につける。また幼児を対象とした発表会の活動案を考え、準備をする過程で教員の指導を受けるとともに、学生相互に改善点を伝え合うことを通して様々な幼児への指導方法を理解する。「保育内容演習Ⅱ」では、学生の主体的な教材研究を活かした活動案を考え、リハーサルを繰り返しながら教員の指導や学生相互に改善点を伝え合うことを通して表現指導の方法を習得する。また計画した内容を発表し、実際の子どもの反応から計画案を省察・評価し、幼児への望ましい表現指導の方法を習得する。

(2)授業の目標および学生が身につけるべきねらい

①幼児の表現活動の具体的な内容を理解し、幼児の発達に合わせた活動内容を知る。

②幼児にふさわしい教材を多方面から研究し、学生間で話し合いながら幼児の活動を計画する。

③幼児が楽しめる活動案を考え、学生間で協力して発表までの準備を行う。

④幼児が楽しめる活動案を具体化し、リハーサルを繰り返しながら学生間で計画案を改善する。

⑤実際に表現活動の発表を行い、その活動について省察・評価する過程で幼児の指導法を習得する。

(3) 授業内容と年間計画

授業の最終目標は、第１に10/13(土)・14(日)の大学祭での子どもの遊び場コーナーを２号館多目的ホールで実施すること、第２に１月下旬(1/26(土))に２時間程度の学生主体の発表形式のプログラムを２号館多目的ホールで実施することである。またその発表後に保育所や幼稚園、子育て支援センター等から要望があれば出前実践を検討・実施することとした。本授業の１年間の授業計画と授業内容は、表１のとおりである。

図 1. キッズシアター(1 月発表会)のチラシ

(4) 研究計画・倫理的配慮

本研究の役割分担は、本稿(1)の全体計画を小山が、「5(1)キッズシアターを通した本授業を通した学生の学び」を渡邉・梶谷が、「5(2)」「6.おわりに」と全体の修正を中井が執筆・担当した。また、本研究において使用する写真については当該学生からの掲載許諾を取り、来場者は全て個人が特定できない写真を掲載している。なお、学生の学びの記録は原文ではなく、個人が特定できないよう抜粋し内容をまとめたものである。

3.「キッズシアター」授業実践の概要

1) 授業の年間計画と授業内容

１月末に２時間程度の学生主体の発表形式のプログラムを２号館多目的ホールで実施するため、学生にどのような内容の発表をしたいかを考える課題を出し、学生個人がその案を学生全体の前で発表した。その発表案をもとに所属したいパートを学生間で話し合って決定し、そのパート単位でパートリーダーを中心に題材の決定、台本作り、背景や小道具などの作成、発表練習を重ねる中で発表できる水準まで高めていった。また授業や授業時間外の自主活動の時間に教員や保育学科２年の先輩から指導・助言を受けたり、学生全体でパートリハーサルや全体リハーサルを行うことで、各パートの内容の改善を図った。

1/26 の発表に向けては、保育所や幼稚園の保護者に配布するキッズシアターの案内チラシ（図 1）を三役（学生全体を統括するリーダー）がとりまとめる形で作成し、三役・学生間で協力して印刷作業を行った。チラシの配布は松江市教育委員会と松江市役所子育て部子育て支援課に協力をお願いし、松江市内の認可保育所・認可幼稚園の各所園のボックスにキッズシアターのチラシを投函し、各保育所・幼稚園から家庭に配布していただいた。

2)授業の進め方の方法

(1)キッズシアターの発表内容の参考例を見る

キッズシアターの発表内容を考える際、初回と 2 回目の授業の中で発表内容の参考例となるビデオを視聴した。キッズシアターは学内では初めての取り組みであり昨年の学生の発表はないため、長年旧短大部で行ってきた「ほいくまつり」の歌唱や司会、劇の発表の様子を見たり、昨年度の中・四国保育学生研究大会で発表された他大学の劇やオペレッタなどの表現活動の様子を見たりしながら、キッズシアターで発表する内容を学生にイメージさせ、どのような活動をしてみたいかを考えさせる材料とした。また 6/14 には「表現研究Ⅰ・Ⅱ（ほいくまつり）」の授業担当教員の好意により、ほいくまつりのリハーサルの様子を実際に見学させてもらい、学生が発表の仕方や表現力、表現方法の工夫を子どもの立場になって見ながら考え、コメント用紙を書くなどの経験をすることでその後の各パート活動の改善につなげた。

(2)学生個人で子どもの遊びの活動・発表内容を調べ発表する

授業の 1～3 回目の中で、学生が個別に大学図書館やおはなしレストランライブラリー（子ども向けの絵本専門の学内図書館）で調査し、「歌や音楽で遊ぼう」「手遊びや体を動かして遊ぼう・クイズやゲームなど」「人形劇」「劇」の題材を調べ、学生全員の前で一人ずつ発表した。その後キッズシアターで発表する活動案を決め、学生の希望によりパート配属を決定した。

(3)パート別グループ活動をし、調べたり話し合いながら内容を改善する

パート決定後は各パート別に発表の題材や内容、テーマ、子どもたちに伝えたいことなどを図書館やインターネットで探したり、話し合いながら進めた。また授業時間や自主活動の時間を使って発表に必要な台本作り、背景や小道具などを製作し、練習をくり返しながら発表内容を改善した。

(4)授業の最初に全員で発声練習をする

キッズシアターでは、学生全員が表舞台に出て子どもたちの前で発表・表現するため、各授業の最初の 15～20 分程度の時間を使って歌とセリフなどの発声練習を全員で行った。最初の 1～2 回は保育学科 2 年生のほいくまつりの歌唱・劇などのパートリーダーに授業に来てもらい、発声練習の方法を教わった。その後の授業ではキッズシアターのパートリーダーが交代で音頭

をとり、歌の発声練習とセリフの発声練習、早口言葉や言葉あそびなどの練習を毎回行い、キッズシアター当日に向けて声量や声質の向上を目指した。

(5)学生全体でリハーサルをし、各パートの内容を改善する

授業や自主活動の時間では各パート内で計画・準備・練習を重ねていくが、全体的な質の改善を図るためには他者評価が必要であるため、表 1 のように活動の節目で各パートのリハーサルを行った。発表者以外の学生は子ども役となり、観覧する視点で参加しながら各パートに対して感想や改善点をコメント用紙に記入し、発表内容をフィードバックできるようにした。

3)学生への授業評価の方法

「保育内容演習Ⅰ」「保育内容演習Ⅱ」は各々半期 2 単位 30 時間の授業であるため、半期ずつ学生に学びの過程を記録させ、授業のまとめとして学生が個人で学んだことや身につけたことをワークシートに記述し、課題レポートとしてそれを評価した。またキッズランドの活動内容案やキッズシアターの発表内容案を学生個人が調べたり考えたりする課題を出し、そのワークシートの内容を評価したり、パート単位でのグループ活動での参加や取り組み、リハーサルなどの発表状況を含めて評価した。

4. キッズシアターの発表内容

1)学生から出されたキッズシアターの発表内容

5/1 の最初の学生個人の発表の中で出されたキッズシアターの発表案は、「歌唱」「クイズ」「人形劇」「劇」の 4 つであったが、各パート決めの際の人数調整の関係から、最終的には「歌唱」「ミュージカル・オペレッタ」「クイズ」「パネルシアター」「人形劇」「劇」の 6 パートに分かれた。

2)発表内容の詳細

学生が考えた「歌唱」「ミュージカル・オペレッタ」「クイズ」「パネルシアター」「人形劇」「劇」の 6 パートの発表内容は以下の通りである。

(1)歌唱（図 2）

歌唱は「おかあさんといっしょ」などの子ども向けの歌を基本に、お姉さんたちがおもちゃたちと出会い、かくれんぼをしたり一

図2. 歌唱

緒に遊ぶ中で、虹を見つけるという展開の台本を作成した。歌は「おはよう」「幸せなら手をたたこう」「し・し・しのびあし」「おもちゃのチャチャチャ」「どんな色がすき？」「たいせつなたからもの」「虹のむこうに」の順で構成した。

(2) クイズ（図 3）

クイズパートは、はなちゃんという女の子が森の中で迷子になってしまうが、くまやうさぎ、ねずみなどの森の動物たちと仲良くなり、森の出口をめざすおはなしに、絵描き歌やクイズをはさみ込み、子どもたちが参加できる内容にした。発表は前半と後半に分け、前半では「動物絵描き歌」を歌い、森の中の様々な動物を子どもが当てるクイズを、後半ではキツネの子がはなちゃんたちを通せんぼし、「動物の一部見せクイズ」に答えられたら通してあげるという展開で、子どもたちが答えて楽しめる内容にした。

図3. クイズ

図4. 人形劇（へんてこもりにいこうよ）

図5. ブラックライトパネルシアター（にじいろのさかな）

(3) 人形劇（図 4）

人形劇は、たかどのほうこ作『へんてこもりにいこうよ』を題材に人形劇を作成した。登場人物が多いので、幼稚園に通う子どもたち 4 人は人形を作り、「まるぼ」や「うし」、「クジラ」などはペープサートで作成した。背景は模造紙に水溶性（耐水性）絵具を使用して作成し、音響効果などもつけ、子どもにもわかりやすく伝わるように工夫した。

(4) ブラックライトパネルシアター（図 5）

ブラックライトパネルシアターは、マーカス・フィスター作『にじいろのさかな』を題材に、1.5m×3mのボードに黒パネルを貼りつけ演じた。多目

的ホールの後ろからでも見えるようブラックライトを下から当て、幻想的な雰囲気になるようにし、音響効果などもつけて演じた。

(5)オペレッタ（図 6）

ショートオペレッタは「ふしぎの国のアリス」を題材に、アリスと時計うさぎ、花やぼうしや、ねむりねずみ、3 月うさぎやトランプ兵などを登場させ、アリスがふしぎの国に迷い込み様々な登場人物に出会う中で楽しい時間を過ごす様子を表現した。曲はドレミ楽譜出版社『はっぴょう会・劇あそび/ふしぎの国のアリス・ガラスのくつ』を参照した。

図6. オペレッタ（ふしぎの国のアリス）

図7. 劇（ねずみのよめいり）

(6)劇（図 7）

劇は、日本の昔話『ねずみのよめいり』を題材に、ねずみの父と娘のチュー子が世界一りっぱなおむこさんを探しに旅に出て、おひさまやくも、かぜ、カベなどに出会うが、最終的にはねずみが世界で一番えらかったことが分かり、ねずみの友達にもお祝いされながらチュー太がおむこさんになるという話を演じた。背景は模造紙・水溶性絵具で作成し、音響効果などもつけ、衣装は太陽や雲、風、壁にみえるように、段ボールやすずらんテープなどを使って視覚的にも工夫して作成した。

(7)オープニング・エンディング

歌唱の発表前に三役が保護者に注意事項を伝え、ハンドベルで「雪」「きらきらぼし」を演奏した。またエンディングでは三役が各パート紹介を行いながらパート別に学生が登場し、最後に学生全員で「虹」を歌った。

5. キッズシアターを通した学生の学び

1)学生のふり返りシートによる学生の自己評価

1/26 の発表後に学生はレポート課題としてキッズシアターの取り組みのふり返りを行ったが、ここに見られる学生の自己評価は以下の通りである。

(1)題材の決定から台本作成について

・決定した題材に関する資料（絵本など）を複数調べ、台本を作成する際に作

者の大事にしているテーマを考え、そのテーマを子どもたちにわかりやすく理解させる工夫を考えることができた。また台本を作成する際に、教員とともに観劇する子どもたちが理解できる言葉が使われているかに着目して台本を作成し、子どもに伝わりやすい言葉を使うという意識を持つことができた。
・自分たちがやってみたいと思うだけでなく、子どもたちに伝えたい視点からの題材設定を行い、選択した題材が子どもたちへどのようなメッセージを与えるのかなど、子どもの気持ちを尊重することを一番に考えるようになった。

(2)チームワークに関する学び

・長期にわたる練習期間で仲間同士の信頼関係を築くことができた。時折、意見が異なることもあり口論になることもあったが、本音をぶつけ合うことでより良いものを作り出す作業を学ぶことができた。
・メンバーの信頼関係を練習の中で築くことができた。将来保育の現場に進んでも、この協力体制を築く経験は活かされると思う。
・リーダーたちの指示を待つのではなく、自分から意見を伝え、チームとしてより良いものを作る環境を整えることを学んだ。
・時間と体力が必要な練習や作業が多かったが、ネガティブな発言はしないというルールを決めて、なるべくポジティブな言葉を発言することでチームの中に前向きな雰囲気を作ることができた。

(3)子どもたちの前で発表して気づいたこと

・本番では、子どもたちの想定外の反応があったりしたが、臨機応変に対応することも大事であると気づいた。将来保育の現場でも役立つと思う。
・実際に子どもたちの前で演じると、思いもよらぬ反応があった。そのことにより、子どもの立場に立って考え、表現することの重要性を学ぶことができた。
・子どもや保護者の立場を考えて日々の活動を行うことに気づかされた。

(4)劇パートの学び

・配役を決定する際に、一人一人の個性が生かすと同時に登場人物のキャラクターと演じる人のキャラクターが近い配役の決め方をした。そのことにより、役を演じることの難しさを実感したこととその役を演じる楽しさを学んだ。
・演じることだけではなく、衣装作りからセット作りまで裏方を担当できた。
・絵本はセリフが最低限しか書かれていないため、子どもが理解できる劇用の台本を仕上げることに苦労した。たとえば、文章が少ない絵本の言葉をそのまま台本にするのではなく、行間にはない言葉やストーリーを補うことで演劇としての台本を完成させることができた。
・演じることは漠然とした雰囲気で行うものではなく、具体的な役柄の設定を考え演技することが必要である。そのキャラクターの年齢や好み、外には見えない細かな設定を行うことで、相手に伝わる芝居ができることを学んだ。

・最初は演技することに恥ずかしさを感じていたが、練習を積み重ねることで恥ずかしさを克服して堂々と大きな声で演技できるようになった。この経験は、将来保育者として子どもたちの前に立つときも役立つはずである。
・保育者として必要な感情表現を学び、子どもたちの感情を思いやることを意識することができた。

(5)歌唱・オペレッタパートの学び

・不思議の国のアリスを題材として取り上げ、長いストーリーを子どもにわかりやすいようにして短くまとめることに苦労したが、この題材で子どもたちに何を伝えたいのかを考え抜いてシンプルな形でまとめることができた。
・歌の活動を続けることで歌唱時の音域が広がり、声量も大きくなれた。歌うことに苦手意識を持っていたが、この活動を通じて自信が持てるようになった。
・様々な歌に触れることで将来に向けて幅広い音楽知識を身につけることができた。保育の現場でも子どもたちに様々な歌を提供することができると思う。
・歌詞の意味や言葉を大切に歌うことができるようになった。
・市販されている楽譜からステージ用の楽譜へと編曲を行う知識を学ぶことができた。簡単ではあるがアレンジを行う方法を学ぶことができた。
・舞台での基本動作や歌唱技術を学ぶことができた。また、セリフがない時のステージ上での演技の難しさや聞く側の演技の重要性も学ぶことができた。

(6)ブラックライトパネルシアターパートの学び

・どのような題材がブラックライトパネルシアターにふさわしいのかというブラックライトならではの題材設定の難しさを感じた。
・絵の具をブラックライト特有の色合いに工夫をすることができた。
・ブラックライトパネルシアターの仕組みや、キャラクターの配置、動かし方、それに伴うセリフの言い方などを学ぶことができた。
・声だけでそれぞれのキャラクターの個性を活かすセリフの言い方や、キャラクターの設定、暗い中で声だけでキャラクターを演じることの難しさを学んだ。
・パネルが想定外の大きさと重さになってしまったため、パネルが倒れないように安全性を確保しながらストーリーを円滑に進めることを学んだ。

(7)クイズパートの学び

・取り上げる題材に基づき遊びやゲームを取り入れることで、子どもたちにとって何が大事なのかを考える力を養うことができた。
・参考になる絵本を元に自分たちのオリジナルのストーリーを考え出した。
・台本にはないアドリブを加えることで、会場の子どもたちの心を解きほぐしたり、クイズに集中しやすい環境を作りことができた。

(8)人形劇パートの学び

・人形を一から手作りで作成した。そのため他パートよりもセリフなどの練習

量は少なかったが演技の面でも納得できるものを作り上げることができた。
・「へんてこもりに行こうよ」という題材を先生方の指導をもとに、子どもたちにとってわかりやすい台本を完成させることができた。
・自分たちのやりたい役を演じるのではなく、一つ一つのキャラクターに似合うことを優先して配役を決めることの重要性を学んだ。
・キャラクターの性格に応じた人形のデザインを考えることができた。
・セリフを言っているキャラクターの動きと相槌を打つキャラクターの動きを研究し、どの人形がしゃべっているのかを明確にする人形の動かし方を工夫した。またすべての人形が同じ動きをするのではなく、キャラクターに応じて大きな動きや小さな動きをすることで、登場人物の違いを伝えることができた。
・人形を作る作業は裁縫に関するものが多かったが、これらの作業を習得することで保育の現場で活動の幅が広がると思えた。

(9)各パート共通の学び

・保育者が実際に子どもたちの前で歌ったり劇をする実践的な内容であり、計画から練習、本番まで、将来に向けて役立つものであった。
・ハンドベル、フルート、ウィンドチャイムなど、普段子どもたちが耳にすることのない楽器を使うことで、子どもたちの関心を集めることに成功した。
・保育現場における発表会や合奏などの指導法を身につけることができた。
・他パートのリハーサルを見て、講評をすることで、自分たちのパート活動を客観的に見ることができるようになった。
・舞台装置やセットなど安全性を考えステージを作り上げることを知った。
・グループ活動を通じて「報告・連絡・相談」を実践する力を身につけることができた。将来、現場で仕事をする際にも役立つはずである。
・限られた予算の中でどのように舞台を作り上げていくかが分かった。
・リハーサルなどでは演じているパート以外の学生が子ども役を務め、子どもの気持ちを考える視点に立てた。
・子どもたちの前で演じることの楽しさを味わった。
・他パートの黒子になって、他のパートの裏方として力になれた。

2)キッズシアター当日の会場アンケートによる評価

キッズシアターに来場した保護者や子どもにアンケートを配布し、回答していただいた。回答の多かった意見をまとめると、以下の通りである。
・1年生にしては皆しっかりしていた（回答多数）。声がよく出ている。
・堂々とした演技ができていた。一生懸命さが出ていた。感動した。
・いろいろなパートのよさがでていた（歌、ブラックライト、クイズ、人形劇、劇など）。内容の完成度が高かった（回答多数）。

・プログラムの間と間のつなぎもよく考えられていた。
・小さい子ども向けに歌がたくさんありよかった。全体的にピアノやフルートなどの生音がよかった。最後の「虹」の歌に感動した。
・2 時間の内容が長めであったが、子どもも集中して見ていた。
・駐車場案内係の学生の誘導など、会場までスムーズに入ることができた。
・楽しかった。来年もまた来たい。

3)キッズシアターの学びの成果と教育方法上の特徴

キッズシアターの取り組みの上で特徴的な教育方法は以下の点である。
・子どもが楽しむことのできる活動案を学生が主体となって考える。
・グループ内外、発表のリハーサルなどを通して、自分の考えや意見を文章に書いてまとめたり、人前で発表したりする。
・発声練習を 1 年生全員で毎回の授業の最初に行い、全員が表舞台に出て自己表現できる力を身につける。
・グループで話し合い、議論しながらよい案に練り上げていく。
・表方も裏方も行いながら、学生間で協働して活動を作り上げる。
・毎回の授業や活動の節目、15 回の授業の終わりで、学生が学んだこと、身につけたことをふり返り、ワークシートに記入したり、文章にまとめたりしながら記述する力や自己省察する力を身につける。
・パート活動はパートリーダーを中心として進め、キッズシアター全体のプログラムや準備・運営は三役とパートリーダーを中心とした実行委員会で決定するなど、実行委員会と各パート、学生個人が組織的に協働する。

6. おわりに

キッズシアターは今年度初めて短大部で行った授業であるが、学生が主体となって考え行動する中で形にしていく取り組みで、実践や発表を通して子どもたちの反応が学生本人に直接分かるため、大変ではあるがやりがいのある活動になったと思われる。またキッズシアターの活動は学生全員が表舞台に出ると同時に裏方も行うなど、学生同士で協力・協働しながら表裏の両方を経験することで、保育者に必要な力をバランスよく身につけることができる活動であるといえる。発表後にキッズシアターを見に来られた参観者から別の場で発表してほしいとの要請があり、学生の自主活動として松江市保育所(園)保護者会連合会主催イベント「おいでよ！わくわくパーク」や島根県立美術館 20 周年イベント「ミュージアムフェスティバル 2019」においてキッズシアターの内容を部分的に発表した。次年度の「保育内容演習Ⅰ・Ⅱ」の授業に向けても、今年度の状況を踏まえ授業の改善を図っていきたい。